Special Feature

横浜横須賀物語

Yokohama Yokosuka Story

今号の巻頭特集は 4/21(sat)~6/17(sun) まで神奈川県立歴史博物館にて開催中の特別展『ヨコハマ・ヨコスカ・ストーリー　二つの港町の戦後文化』を取材！　日本ジャズ史と密接な横浜＆横須賀の歴史に注目してみました。

取材協力：神奈川県立歴史博物館
学芸部長　寺嵜弘康

『ヨコハマ・ヨコスカ・ストーリー』のチラシ
【http://ch.kanagawa-museum.jp/tenji/toku/toku.html】

映画『男はつらいよ』の中で寅さんが語る「…ネオン、ジャンズ高鳴る大東京…」というお馴染みの口上があるが、日本でいち早くジャズが普及したのは横浜と横須賀だろう。横浜と横須賀は外国船の入港が頻繁で外国人との交流も深く、外国の物や文化がいち早く流入した場所でもある。終戦後、厚木飛行場に降り立ったマッカーサーがその足で向かったのは横浜～ホテル・ニューグランドだったことは有名だが、特に戦後の横浜と横須賀におけるジャズの普及は目覚しく、ラジオ放送でアメリカのジャズが流れる一方、日本では旧陸海軍の軍楽隊出身者等でいち早くジャズ演奏を始める人が多く、横須賀海兵団に入隊し、横須賀海軍軍楽隊の一員だった原信夫もその一人だった。

米軍進駐地ごとに将兵用のクラブが設けられ、軍人の階級により将校クラブ、下士官クラブ、兵員クラブ（黒人兵専用クラブも含む）に分けられ、横須賀には有名な「EM クラブ」があり、横浜だけでも 20 以上のクラブがあった。また、当時横浜には進駐軍向けキャバレーも 5 軒あり、ジャズ演奏者の需要がとても多かった。あのクレイジー・キャッツのメンバーもテレビで大人気を博す前のジャズ・バンド時代に、横浜・伊勢佐木町にあったキャバレー「モカンボ」等で夜毎演奏を繰り広げていた。ジャズ以外でも、いしだあゆみの「ブルー・ライト・ヨコハマ」や山口百恵の「横須賀ストーリー」のヒット曲でも知られる横浜と横須賀だが、あの美空ひばりは昭和 12 年、横浜市磯子区滝頭の魚屋「魚増」を営む両親の元で産声を上げ、昭和 21 年 3 月 1 日に同磯子区にあった「アテネ劇場」で初舞台を踏んだ。

今号の巻頭特集は、4/21~6/17 まで「神奈川県立歴史博物館」にて開催中の特別展『ヨコハマ・ヨコスカ・ストーリー　二つの港町の戦後文化』を取材。この特別展の展示数は約 130 点で、その他にも横須賀でジャズ人生をスタートし、横浜で自身のビッグバンドを結成した原信夫と横浜で 74 年の歴史を有したジャズ喫茶「ちぐさ」にスポットをあてたコーナーも設けられており、原信夫愛用のテナー・サックス「キングスーパー 20」や「真赤な太陽」等、原信夫が曲を手掛けた美空ひばりのレコード、今回が初出となった印字のように美しい原信夫の手書きパート譜と原信夫が所有していた伝説のピアニスト守安祥太郎の鉛筆による手書きスコア等も展示され、「ちぐさ」コーナーでは貴重な V ディスクや店内に置かれていたテーブルとイス、店主内田衛に宛てた植木等の手紙等も展示されていた。

この特別展を見るまで知らなかった歴史も多く、改めて横浜と横須賀とジャズの関わりの深さを実感させられた。

山手から見た横浜市街（汐汲坂あたりから）
昭和 20 年 8 月頃
（スミソニアン航空宇宙博物館）

太平洋戦争～横浜大空襲によって一面が焼け野原となった横浜市街。終戦後間もなくして、米軍を中心とした連合国軍が相次いで神奈川県内各地に進駐を開始した。

「悲しき口笛」ポスター
昭和 24 年（日高コレクション）

美空ひばり像
平成 24 年 3 月撮影

横浜物語
Yokohama Story

昭和 20 年 5 月 29 日の横浜大空襲～ 8 月 15 日の終戦を経て、昭和 20 年代の横浜中心部は、ほぼ進駐軍の土地であった。その後、野毛通りに横浜マーケット（闇市）開設。昭和 22 年横浜国際劇場開場。昭和 24 年日本貿易博覧会開催等、アメリカ文化に大きな影響を受けながら港町として復興してきた。

米軍兵士が歩く馬車道
昭和 20 年 9 月 20 日（横浜市史資料室）

伊勢佐木町通り
昭和 21 年頃（個人）

女子野球大会入場式
昭和 22 年 8 月 29 日（横浜市史資料室）

オクタゴン劇場
昭和 20 年 10 月 16 日（米国国立公文書館）

マッカーサー劇場開場 3 周年記念写真
昭和 24 年 3 月 3 日（横浜市史資料室）

ダンスチケット
昭和 22 年（神奈川県立歴史博物館）
ダンスホールやキャバレー等では、ダンサーと踊るには事前にチケットを買い求め、1 枚毎に 1 曲踊れた。クリフサイドは昭和 21 年 8 月に開業し、現在も続く老舗。

横須賀物語
Yokosuka Story

戦前は軍都として、戦後は進駐軍の街として、進駐軍兵士向けの商店街が形成され、スーベニアショップが軒を連ねた横須賀。「EM クラブ」は文化発信の拠点となり、兵士だけでなく市民が参加できるイベントも行なわれ、スカジャンという独特のファッションも誕生した。現在も「基地の街」として栄え続けている。

どぶ板通り（絵葉書）
昭和 20 年代（個人）

大滝町さいか屋
昭和 30 年頃（個人）

ガントリークレーンとオリエンタルアーケード
昭和 30 年頃（個人）

スカジャンを見る米軍兵士
昭和 26 年 7 月 16 日（米国国立公文書館）

EM クラブ
昭和 21 年頃（個人）

お土産用絵葉書袋
昭和 20 年代（個人）

横浜ジャズ物語
Yokohama Jazz Story

昭和 20 年代の横浜市中区周辺には、19 の映画館に、主な進駐軍関係のクラブ・キャバレーだけでも 19 店舗存在した。その後、日本人が経営するバーやキャバレー、ジャズ喫茶が出現し、以下の店以外にも「午後」「トリスクラブ」等、伝説的な場所が生まれた。

ハーレム
昭和 28 年（横浜 JAZZ 博物館準備委員会）

モカンボ
昭和 28 年（横浜 JAZZ 博物館準備委員会）

ワルツ
昭和 28 年頃（横浜 JAZZ 博物館準備委員会）

ちぐさ物語
Chigusa Story

横浜で 74 年の歴史を持つ日本最古の老舗ジャズ喫茶であった「ちぐさ」。店主の吉田衛が昭和 8 年に開店するが、昭和 20 年に横浜大空襲で焼失。翌々年の 22 年に元の場所に再建。平成 19 年に惜しまれながら歴史に幕を下ろしたが、平成 24 年 3 月 11 日「ちぐさ会」が中心となって第三次「ちぐさ」が復活。

ちぐさ外観
平成 19 年（森日出夫撮影）

店主　吉田衛（左）
（野毛地区街づくり会・ちぐさ会）

カウント・ベイシー
（野毛地区街づくり会・ちぐさ会）

ちぐさ　内部
平成 19 年（森日出夫撮影）

ちぐさでの演奏：原信夫　穐好敏子　等
昭和 61 年（野毛地区街づくり会・ちぐさ会）

看板
昭和 30 年頃（野毛地区街づくり会・ちぐさ会）

テーブル／イス
（野毛地区街づくり会・ちぐさ会）

V ディスク
（野毛地区街づくり会・ちぐさ会）

現在のちぐさ外観
平成 24 年 5 月

原信夫コレクション展示室

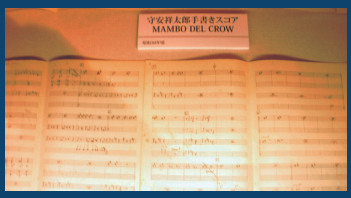
Nobuo Hara Collection

昭和元年富山県富山市生まれ。昭和 18 年に横須賀海兵団に入隊、横須賀海軍軍楽隊の一員となる。昭和 22 年に横須賀 EM クラブ出演。昭和 26 年横浜で「原信夫とシャープス＆フラッツ」結成。昭和 34 年 NHK 交響楽団定期演奏会で N 響と共演。昭和 38 年第 14 回 NHK 紅白歌合戦に初出演。昭和 42 年ニューポートジャズフェスティバルに、日本人初の出演。平成 21 年横浜にてラストステージ。日本を代表するビッグバンドのリーダーで、戦後の横浜・横須賀を知る原信夫の歴史を公開。

デビュー間もない頃
昭和 20 年代前半
（原信夫）

シャープス＆フラッツ結成の頃（ヴィラクラブにて）
昭和 26 年（原信夫）

テナー・サックス
（キングスーパー 20）



守安祥太郎の手書きスコア MAMBO DEL CROW
昭和 30 年頃（原信夫）

New Port Jazz Festival Miles Davis, Chick Corea たちと
昭和 42 年 7 月

皇居桃華楽堂での
ステージ衣装と譜面台

ステージ衣装
裏地のデザインもお洒落な特注品

★原信夫コレクション展示室で流されていた BGM 3作品

1967年に日本人バンドとして初出演を果たした「ニューポート・ジャズ・フェスティバル」でのライヴ音源を収録。

ニューポートのシャープス・アンド・フラッツ
原信夫とシャープス・アンド・フラッツ
（日本コロンビア：COCB-53746）

2008年にリリースされたコロムビア音源によるコンピレーション・アルバム。未発表音源を含め、全18曲収録。

栄光のシャープス・アンド・フラッツ
原信夫とシャープス・アンド・フラッツ
（日本コロンビア：COCB-53749）

2009年にリリースされた作品で、2008年11月2日に「東京文化会館」で行なわれたファイナル公演を収録。

ラスト・フォーエヴァー
原信夫とシャープス・アンド・フラッツ
（ewe records：EWSA-0158）